

西教寺報

去る十月七日行われた川原家仏式起工式の様子(関連記事は六頁)



第90号
仏歴2546(2002・平成14)年
9月20日発行
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
TEL0823(21)2798
FAX0823(21)2795
郵便振替番号
01340-3-29117

紙 面

- 信天翁を「縁」に思つこと 岩崎正衛(住職) 1
- お盆で帰省を「縁」に初参式 佐々木珠希木ちゃん 2
- お詫びと訂正・お礼 3
- 長ノ木本坊本堂修復経過のご報告 4
- 白道会天会 4
- かみめたい三話し:久保田利数 4
- 安芸南組夏休み子ども大会 5
- 中岡シナヨ同行の歌 5
- 仏式起工式・仏式棟上げ式のすめ 6
- 西本願寺「正當」(御正念) 報恩講団体参拜 6
- 誓子の日記:岩崎誓子 7
- 敬悼録 7
- 臼井哲実さん 7
- 西教寺法座と例会のご案内 8

あほうどり 信天翁を「縁」に思つこと

岩崎 正衛(住職)

八丈島のはるか南、伊豆諸島南端の鳥島が、今からちよつと百年前の一九〇二(明治三十五年)年八月七日に大噴火し、島民百六十五人が全滅するという悲劇が起こりました。この島は、今では国際保護鳥にもなっている信天翁の天然の繁殖地で、最盛期には三万羽くらいいたそうです。ところが

この信天翁の羽が羽布団に最適なので、これだけの人間が渡って捕獲し続けていたのです。たまたま大噴火の前日に病気療養のためにこの島を離れていた一島民の口によって、信天翁はなんと百五十羽前後にまで減

少し絶滅寸前であったことがわかりました。島民の全滅は悲しむべきことに違いありませんが、信天翁の立場からいうと、まさに「天佑(天のたすけ)」ともいふべきものだったろうと思います(現在千五、六百羽まで回復しているそうです)。

私はこの話を聞いた時、すぐに金子みずさんの有名な「大漁」という詩を思ひ出し、

朝焼けこ焼けだ 大漁だ
大羽鰯の大漁だ
浜は祭のようだけど
海の上では 何万の鰯のとむらいするだろう
ということです。

必見

通り報恩講が始まります

別紙の「報恩講の心得とチェックポイント」と「報恩講日程表」をよくご覧の上、「準備ください」。

人間の中でも自分自身を中心としたものの考え方をするのが当たり前のことのようになってい

ます。だから金子さんを含む人間の立場から言えば、鯛の大漁は大変喜ばしいことに違いありませんが、金子みずずさんは一転して鯛の立場でものを考えているのです。なつかしい仲間であるあのいわしも死んだこのいわしもいなくなつた。せめて葬式でもしてやらなければ…というような意味の詩でしょう。あるおばあさんが話されました。夏も終わりに近づくと大地の上にセミがひっくり返っている。まだ生きているのにもアリコ(蟻)がやってきている。アリコを追っ払ってセミをどこか木の下へでも移し、静かに死を迎えさせてやったがよいのか、せつかくアリコたちが見つけた大事な食べ物だから、見逃してやるべきか?本心に心が痛みます…と。世の心が痛みます…と。

中、こんな心やさしい人も多いのに、現実はどうしてこう争いが絶えないのでしょうか?

私(住職)は、自他ともに認める大変な汗かきな人で、夏場は特につらい思いをするのですが、先日ある人が、自分の顔から首筋へかけてかいていた大汗を私に見せて「やねこい(広島さぞかしのう、と思つべきではないのか?)という考えがひらめいたのですが、



絵・堀岡春三さん

の方言でしんどい(意)ですワイ」と本當にたつたに話しかけて来られるので

「そつ思つべきではないのか」との作為心が動いたのですから、決してほめられ

るようなものではありませんが、それでも自分の弱点(ウィークポイント)を通して他人のそれが同情的に受け取られるとは「我ながら大した進歩じゃワイ」とひそかに自画自賛したことです。

いのちあるものみんなが幸せであるように、とのみほとけの心をいただいた仏教徒として人間同士はもちろん、いのちあるすべての生き物の上にも心配りが動くことができるのは本當に幸せなことです。

ブッシュ大統領は、9月十一日事件の報復と称して、アフガンを攻撃し、無辜の民をあれだけ殺傷しながら、今度をイラクを攻撃しようと虎視眈々としています。アメリカの意見に賛成しないもの、もっと端的に言えばブッシュさんの意見に賛成をしない者は、みな



お盆で帰省をご縁に初参式(赤ちゃんの初参り)に参詣された佐々木克明・明美ご夫妻と珠希ちゃん(写真中央)。

敵だといつのですから、本當に恐ろしいことです。こんな自己中心的な考え方は、仏教からはもちろん、あの人の信仰するキリスト教の教えからもとても出てこないはずなのですが、人間、自己を絶対視することか、いかに危険であるかというアメリカ中心主義のニュースを毎日知らされる

とは、何とも言葉もないほどです。西洋の諺に「大声で言つても分る筈がない」というのがあるそうです。彼の頭をはたいてでも、彼の考えを直させたいのですが、いかなる場合も暴力はいけないことでしょうか。



おわびと訂正

【八九号訂正】

一頁下から三段目誤「ほのしらすらし」正「ほのしらすらし」二頁新総代世話人の写真向井茉莉さんと向井博子さんの写真が逆でした八頁「連研第一期終了誤「十一名が終了」正「十二名が終了」守屋玉江さんを追加九頁「三津田支坊のお齋の写真は、小田原家年回法事の手作りお齋（精進料理）でした。」

お礼

【アナウンシステムお礼】

橋川カガノさん、河野俊木村綾美、野小原江美、川悦子山崎美子、藤子板野鈴金子延塚マツ、敏子サトウ工金延塚マツ、静枝内本廣子宮原浩、井上カズエ平本和世、分信子浜中篤美（敬称略）、【寺報へ】塔岡尉令（広島市佐伯区）青木登志子（東京都台川区）三宅ツヤ子（呉市阿賀北）西田久雄（呉市広横路）青木尚（静岡県富士宮市）（敬称略）

【同済議会ハザーレ】

ご提供下さった方がありがとご提供頂きました。ハザーレへの資財提供は、毎年九月ごろ非行つております。皆さんも是非協力下さい。

長ノ木本坊 本堂修復 経過の「報告

皆さんのご心配を頂いている修復に関する前号以後の進展状況を「報告いたします。

七月末～八月初旬 土質・地盤調査をしました。山側で三メートル、海側で六メートルで基岩層（地山）に当たり、大変良好な地盤だといことが判りました。

八月三十一日

修復委員会で参考事例見学に行きました。高田郡吉田町法園寺・甘日市市西向寺など四ヶ寺と呉市文化財である向日原八幡宮を見学しました。今回の修復方針は、長ノ木本坊本堂を将来文化財にする



澤登教授の話を聞く修復委員

こともできるよという修復方針にそって、八幡宮の修復に携わった澤登宜久（近畿大学教授・呉市文化財保護委員会委員）先生より現地でお話を聞きました。現在は入札の準備中です。

これからの予定

2003年	十月	入札
	十一月	施工契約 素屋根工事
	十二月	解体調査
2004年	四月	揚屋工事 基礎工事
	六月	木工事 （軸部・軒・小屋）
	八月	上棟
	九月	屋根工事
	十一月	木工事 （造作他） 壁工事
	2004年 一月	設備工事 雑工事
	四月	竣工

お願い

修復工事報告書を作成するにあたり、お寺の歴史を調査することになりました。西教寺長ノ木本坊の古い写真や絵図、新聞記事、その他の記録（県・郡・市町村史誌・近世地誌などの地方誌）など、何でも結構です。修復委員会（窓口・蔵本通支坊）までご連絡下さい。 0823(21)2798



修復に関する詳しい情報 各西教寺本堂に設置 FAXを希望（0823-21-2798までご連絡ください） インターネット <http://www.ttec.co.jp/~chinei63/temple-contents.htm/hondou>

白道会大会

真宗カウンセリング講習会も開催

去る八月二十三日、二十五日、西光義敬先生（元龍谷大学教授・真宗カウンセリング研究会会長）をお招きして白道会大会が開催されました。



西光先生

白道会は、会員約五百名の会で、忙しい男性も年に一度はお聴聞しようとして、澤原俊雄さんを発起人代表としてはじまった歴史ある法座です。会費を募って高名な先生をお招きしますの、普段なかなか聞けないお話を聞くことができま

す。西光先生は、長年真宗カウンセリングを学ばれ「聞くこと」を追求してこられた方です。真宗の場合も聞くこと（お聴聞・法座）が生命線ですが、この度は、私たちの聞く姿勢を問い直すこと、そしてそれが成り立つための法座の形態について、教えていただいたように思います。

全体が「名ばかりの門徒・形ばかりの僧侶」（前ご門主のお言葉）となり形骸化つつある中で、先生は、私たちが大切にしてきた（教えの）聞き方は本当にこれで良いのか、問い直す必要がある、ただ「聞く」のは何十年聞いてもダメ。「聞きひらく」（蓮如さまの言葉）ことが大切。そして、「後生の一大事を心にかけて聞く」ということについてじっくりとお話を聞かせて下さいました。

また、二十四日昼席は、特別にカウンセリング講習会を設け、約七十名の参加がありました。現代は複雑多様化し、心に悩みを持つ人は増加の一途をたっています。そのような人たち、私たちはいかに応えてゆくべきでしょうか。先生は、「助言」はほとんど役に立たない。激励やなくさめは逆効果になることがある。質問に答えるのではなく相手の気持ちを聞く心の中を吐き出すプロセスが心が良くなるプロセスであり、気持ちをしつかり理解してくれる人間関係が大切など、知っておくべき大切なポイントを教えてくださいました。この講習会は、実践練習を含めて年に数度継続して行う予定です。

また、二十四日夜席は、参詣者が車座になって「話し合い法座」が行われました。西教寺では御示談（講師と参詣者の質疑応答）や対談（講師と若院の対話を参詣者が聴聞）などは行

なポイントを教えてくださいました。この講習会は、実践練習を含めて年に数度継続して行う予定です。

また、二十四日夜席は、参詣者が車座になって「話し合い法座」が行われました。西教寺では御示談（講師と参詣者の質疑応答）や対談（講師と若院の対話を参詣者が聴聞）などは行

かみしめたい三話

久保田 利数

念仏繩

ある時、父に話す。京都黒谷には念仏繩というて、藁一束を念仏しながら一心に細繩にな（の）うたなら、銭一貫文くださるそう。これは隠居する人にはよい仕事であるよ。それでは私も今日よりな（あ）んでみましよう

われたことがあります、皆が膝を交えての座談会は初めて。参詣者はとまどいながらも熱い思いを語り合いました。

（註）真宗が栄えている時の法座は、説教（講師から門徒方向へ仏意伝達）・領解出言（門徒方向からの信仰告白）・談合・座談（双方向による相互の深めあい）が、それぞれに関連しあいながら展開してきたことが、現在注目されています。

言うて繩をみて差し出した。すぐに右代金八百文いだ。出た来た繩も上手だったし、その上念仏しながらあんだとは、更によしと云うて八百文も下さった。というので、善齋手を打ち、さてもさても立派な心がけだよとおほめにあつた。それから余心なくひたすら念仏しながら仕事をした。以後念仏の貴き味を知り、ついに仏教の信者になつた。これは新

右衛門の孝行しようという心より出た知恵だと人々深く称賛したという。

手車の翁

『近世騎人伝』より引用す。享保（江戸時代一七一六〜一七三五）のはじめ、手車という玩具を売る老人がいた。片手に持った車を糸をもってまわして、これは誰のじゃ（誰が買ったのか）という、これは己のじゃ（己が買ったんだ）と答えて子供が買つ。だからこの人がやつて来ると子供たちが集まって喜び遊ぶ。

この手車売りの老人は、難波へも行って売つた。この老人、ある年の商売が終つたので、ある家の軒下に、やれやれとつぶやきながら坐つたが、ねむるよつに死んだ。その側に小さき卒塔婆

（墓の上に立てる塔）を立て

小車の

めぐりめぐりて

いまここに

たてたそばは

これはおれのじゃ

つきやま

古より築山をきづく人は多い。その風情（格好・景色）は同じでも真の意趣はそれぞれに異なる。白楽天は小池を掘り、そのほりに竹を植えて愛された。そして曰く「竹は是れ心虚しいので我が友とす。水は性清ければ吾が師とす」と。世間に山水を好み愛する人、すべて白楽天の意のごとくであれば、実にこれ俗塵を離れ、天性淡泊で、

ただ詩歌を吟じ泉水にうそぶき（詩歌をつくる）で心を養つ人と言えよう。泉右の書言「自然の景は治し

がたい」の意より「治しがたい病氣」をいう）とはこのような人を言うのだから。

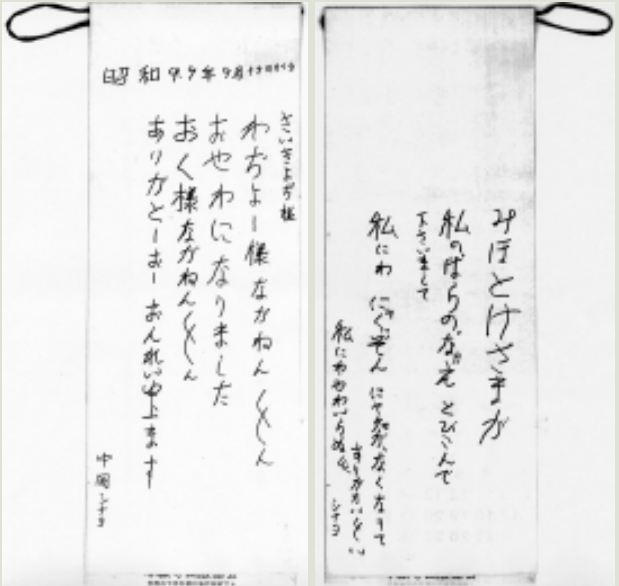
安芸南組 夏休み 子ども大会

毎年恒例となつた龍谷大学伝道部の学生さん達が、ゲームやご法話などをして下さり、子供たちは原爆の日「兵戈無用（兵隊も武器もいらぬ）」、「仏説無量寿経」というご法話を聞きました。昼食は、安全で美味しいキートンのカレーに「おかわり」の行列ができました。



美味しいカレーに大満足の西教寺日校生徒

中岡シナヨ同行（一八九二〜一九八六）の歌



みほとけ（仏）さまが 私のはら（腹）のなか（中）え（へ）と（飛）びこ（込）んで下さいまして 私にわ（は）にやくぞんにやくも（若存若亡）がなくなりて 私にはせわ（世話）いらぬ 私には世話いらぬ ありがたい ありがたい シナヨ 若存若亡「信心が至る成住持。親鸞さまの『浄土高僧相續』（圓末）には、「ある時は住まざると思ひ、ある時はとも住まざると思つるを若存若亡」といふことあり。

昭和四九年 九月十九日か（書）いた
さいきよし（西教寺）様
わぢよー（和上・先代俊雄）様 ながねんながねん
おせわ（世話）になりました おく（奥）様（前坊守ナヲ）ながねんながねん（長年長年）ありがとーおー（ありがと）おんれい（御礼）申上ます 中岡シナヨ



ヨイショ!

去る七月七日、川原家（施主川原キクエさん）では、家屋新築に当たり、仏式で起工式をされました。

仏式起工式・仏式棟上式のスヌメ

前号の仏式結婚式に続いて、仏式起工式のご紹介です。あまり知られていませんが、あるんです。するのはいちたうて簡単。準備するものはお仏飯とお花だけです。では、仏式は神式とどう違うのでしょうか。う？式中、お経の前の「表白」（下段枠内参照）にあるように、「諸難おこらざれと願う」「凡情」は誰でもが抱くものだといいつながら、しかし、仏智を聞く者は、どこか心の深いところでは教えの通

『表白』

ここに本日諸々の縁調い、敬しく阿弥陀如来の尊前を荘厳して仏子 川原家の止住する家屋を建立する起工式を営む。

およそ阿弥陀如来は、道理に暗き我ら凡夫を無量の智慧と慈悲とをもって調育照護し、金剛不壞の信心を恵みて、無明の長夜に無礙の一道を示したもう。

すなわち、諸難起こらざれと願うは凡情なりといえども、諸難起こらざる人生はなし。信心の智慧を賜れば、天神・地祇も敬伏し、魔界・外道も障碍することなし。罪惡も業報を感じることもあたはず、諸善もおよぶことなき無礙の一道なりと。

本日仏縁にあつ冀 願わくは深く因果の通りをわきまえて諸難を超越し、無礙の一道を歩み 諸事滞りなく完了して慈光あふれる新家屋の成就せんことを

時に仏曆 一五四六年（西曆 二〇〇二年七月七日 仏弟子 西教寺末学 釈正衛敬つて申す。

り「諸難起こらざる人生はなし」と思いとつて力強く日暮しをするのです。おれやお守り、破魔矢などを手放せず、色んなものに縛られて生活せずとも、お念仏さえあれば大丈夫だということば、安善門徒といわれたい先祖が証明済みのこと

だから仏式には「おまじない」「や」「お願い」はありません。仏式の起工式は、み仏とともにこれからの山あり谷ありの人生を強く明るく生き抜く心を大切に確認する式です。皆さんも是非どうぞ。

西本願寺ご正当（御正忌）報恩講団体参拝

7年ぶりに団体参拝バスツアーを企画いたしました。みなさん一緒にお参りいたしましょう。

日時/2003（平成15）年1月10日（金）～1月11日（土）

費用/38,000円 定員/45名 お申込・お問合せ/お寺まで（TEL・FAX・Email可）
主催 西教寺（TEL0823-21-2798 FAX0823-21-2795 Emailchinei63@enjoy.ne.jp）

1 / 10 (金)	7時頃	12時頃	17時20分
	呉	京都	御旧跡参拝 西本願寺聞法会館（泊）
1 / 11 (土)	6時30分	14時	20時20分頃
	西本願寺（晨朝・門信徒の集い・日中・特別講演・お斎）	西大谷	呉

白井哲実さんの日記

「近況報告です」の巻

前号より早三ヶ月、しばらく悩んではみましたが、「いたずらに明かし暮らして」「いる毎日の私には、どうも気の利いたことかと思いつきません。そこで近況報告をしたいと思います。

お寺では、長ノ木本坊の修復に向けて、門徒総代・世話人の方々の苦勞と門徒の皆さまのご理解のお陰で、順調に計画

白井哲実さん

三津田地区総代として、ご尊父同様お世話を下さいました。毎法座参詣され、三津田支坊の椅子も寄付してくださいました。また、亡くなられる直前まで、長ノ木本坊本堂修復委員として西教寺のご法義繁盛のためにご尽力下さいました。

敬 悼 録

一日 西辰川二	久安 郁子	八八歳
八日 福岡県嘉穂郡	重本 恭治	七八歳
十二日 西惣付町	榎岡 寛佐男	七八歳
十三日 三條一	平塚 澤子	八八歳
七月		
二日 西谷町	山本 四郎	八八歳
七日 神山三	宗政 タマヨ	九二歳
十三日 西片山町	小川 国人	九一歳
十六日 内神町	上本 和美	三三歳
十七日 西片山町	岩本 春雄	五五歳
十九日 西辰川一	中道 トメコ	九十歳
廿一日 畝原町	斎藤 みどり	七七歳
廿二日 三條四	白井 哲美	七四歳
廿六日 東惣付町	斎藤 サチ子	八五歳

廿七日 畝原町	太刀掛正行	八八歳
廿九日 畝原町	神崎 アキヨ	九二歳
八月		
一日 中央六	中岡 イヤ子	七五歳
九日 平原町	大崎 邦勝	六七歳
十二日 西辰川二	大谷 シズ子	八五歳
十三日 東中央四	前場 潔	六八歳
十九日 南辰川町	二十歩 ヒデコ	八六歳
廿一日 伏原一	青木 スミ	九七歳
廿二日 阿賀北三	山西 ミサオ	九六歳
廿三日 安芸郡熊野町	片山 憲治	六八歳
廿六日 中通三	吉村 二三枝	七八歳
廿八日 西三津田町	関内 ヒサコ	八二歳
廿九日 西辰川二	寺道 茂	七九歳

(敬称略・年齢は数え年)



が進められております。沢山の方々が西教寺を我が寺として盛り立て下さる気持ちで肌で感じ、若坊守として何とも未熟な自分の姿に、身の引き締まる思いでしっかりしなくてはと思っております。

さて、智恵さんは夏に入ってから腰痛に悩まされていましたが、結局は運動不足のたると身体が原因と悟って、最近、早朝ウォーキングを始めました。すっかり朝型人間になった彼は、夜型人間の私

が重い体を引きずって起きてくる頃には、シャワーを浴びて意気揚々としています。お陰で腰の状態もずいぶん良いようです。

子供たちはと言いますと、慧は長い夏休みが終わって少々どころか、心も体もたるみきつています。慧も小学校に入って、これで一安心かと思っていた私は甘かった。親の手のかからなくなった彼をずいぶん成長したなあと思ひ反面、寄り道、忘れ物等々、

今までなかった心配事に悩まされる日々です。幾度となく親になることの大変さを思い知らされてきましたが、複雑な思いとともにまたこれで私も親として子供に成長させて貰っているのだと感じています。学遊のおちびコンビは、兄ちゃんの学校が始まって少しパワーダウンしています。学は口が達者になり、某アニメの影響で自分のことを「オレ様」といつて周囲の大人を驚かせています。遊は何を隠そう三兄弟の中でも一番の乱暴者でしかも知能犯です。今までお兄ちゃん達が代々大事に使ってきたおもちゃや本を、次々と破壊して

新聞に載せる記事、ご意見
ご感想をお待ちしています。

〒737-0051
呉市中央7-7-13
西教寺蔵本通支坊
西教寺報編集局 宛
FAX (0823) 21-2795
Email chineib3@enjoy.ne.jp